

## 鳥インフルエンザ、BSE、口蹄疫等の効率的な リスク低減技術の開発

### 1. 事業概要

鳥インフルエンザ、BSE等の家畜伝染病は、被害農家等の経済損失が大きだけでなく、新型インフルエンザ、変異型クロイツフェルトヤコブ病等として人への脅威となり得る重要疾病であり、家畜への侵入防止や感染早期での制圧、まん延防止のため、様々な対策が講じられています。

本プロジェクト研究では、平成20年度から、これらの人獣共通感染症を対象として、防疫措置に係る行政コスト及び農家の経済損失の低減を目指し、基礎的知見の更なる集積を図るとともに、現在実施されている防疫措置等の高精度化、効率化のための技術開発を実施しているところです。

一方、平成22年4月に宮崎県で発生した口蹄疫は、我が国の畜産業に多大な被害をもたらしました。近隣諸国で口蹄疫の発生が続き、従来、周辺地域では一般的でなかった血清型のウイルスによる発生が急増している状況下では、口蹄疫が再度国内に侵入する可能性も否定できず、現行の防疫対策の更なる高度化が望まれます。このため、新たに口蹄疫の早期摘発、拡大防止のための技術開発等を行います。

### 2. 公募研究課題別の研究開発内容、目標等

「公募研究課題」口蹄疫の早期摘発技術、拡大防止技術の開発

#### (1) 研究開発の具体的内容

口蹄疫の早期摘発、拡大防止のための技術として、口蹄疫ウイルスの国内・地域内への侵入時に、ウイルス分離を迅速化できる技術、及びウイルスの血清型、変異に依らず正確に口蹄疫ウイルスを検出できる検査法を開発。

また、感染動物からの口蹄疫ウイルスの排出を抑制することが確認されている物質について、野外での使用を想定した有効性の評価を行うとともに、感染抗体とワクチン抗体との識別検査について、野外でのワクチン接種を想定した有効性の評価を実施。

併せて、平成22年に宮崎で発生した口蹄疫ウイルス株の病原性の解明を実施。

#### (2) 達成目標（最終目標）

- ① ウイルス分離を現行の1/2程度の時間に短縮する技術の開発
- ② 口蹄疫ウイルスの排出を抑制する物質及び感染抗体とワクチン抗体との識別検査法について、野外使用における有効性の評価
- ③ 2種類以上の動物における、平成22年に宮崎で発生した口蹄疫ウイルス株の病原性の解明

#### (3) 研究実施期間（予定）

平成23年度～24年度（2年間）

（4）平成23年度の委託研究経費限度額 92,238千円

3. 委託件数

原則1件とします。

4. 問合せ先

上記の内容に関する問合せは、応募の締切までの間、下記において受け付けます。

なお、審査経過、他の提案者に関する事項、応募に当たり特定の者にのみ有利となる事項等にはお答えできません。また、これ以外の問合せについては、質問者が特定される情報等を伏せた上で、質問及び回答の内容を農林水産技術会議事務局のホームページにて公開させていただきますので、ご承知おきください。

記

○ 公募研究課題について

農林水産技術会議事務局研究開発官（食の安全、基礎・基盤）室  
担当者 鈴木、加納

TEL：03-3502-7430

FAX：03-3593-7227

○ 契約事務について

農林水産技術会議事務局総務課契約班 担当者 藤原

TEL：03-3502-7967

FAX：03-5511-8622